

# 世界のソーシャル・ビジネス

アジア・オセアニア編  
ニュージーランド



黄色の部分がセンサー。バズテックは、テクノロジーを取り入れた農業関連の起業を支援するプログラム「スプラウト」に2016年に参加が認められた8グループのうちのひとつ

## 一般家庭にも養蜂箱 健康なハチを増やす

近年、世界的にハチの個体数が減少している。多くの国でネオニコチノイド系農薬が原因といわれているが、ニュージーランドではミツバチヘギイタダニに起因するとされる。国内では、ダニの寄生から守り、巣を徹底的に管理し、ハチを都市部の生態系に呼び戻すことを目指す、ビーズシングズ社が注目を集めている。（ニュープリマス＝クロード・ディア＝真理）

ニュージーランドでは、ネオニコチノイド系農薬には使用制限が課せられているものの、禁止されてはいない。

養蜂関連サービスを提供するビーズシングズ社の業務の中で最も大きな比重を占めるのが、養蜂箱のレンタルだ。オーナーのジュリアン・マッカーディーさんは、レンタル養蜂箱は、養蜂家と養蜂に関心を持つ一般家庭や企業との「仲人役」だと考える。

敷地内に養蜂箱を置きたいという連絡が入ると、提携先の養蜂家に知らせ、仲を取り次ぐ。養蜂家は実地足を運び、箱の置き場所を決め、設置に問題がないか確認し、後日ハチ入りの養蜂箱を据え付ける。

1年の契約期間中は毎月、養蜂家はクライアントを訪問し、ハチの状態を確認。同時に、ジュリアンさん開発の蜂巣管理システム「バズテック」を併用し、管理を徹底する。

中でも重要な機能がセンサーだ。ハチの様子を把握す

ビーズシングズ社の最高経営責任者のピーター・アレキサンダーさん（左）と右がジュリアンさん



るために、巣箱に差し込み、温度と音声情報を収集する。それらはデバイスに送られ、どこにいても養蜂家はモニターできる。また専門のソフトウェアで情報を蓄積・分析。早めにハチを救う対策を講ずるのに大きな助けになる。

クライアントにとって、ハチの姿を毎日目にし、養蜂家から興味深い話を聞けるのは有意義なことだ。さらに魅力的なのは、用意されている5つのプランのうち、4つには各々契約にに応じ、年に7—40キログラムのハチミツが提供される点だ。料金は月額50NZドル（約

4千円）から119NZドル（約1万円）までとなっている。

### 学校には「ビー・クラブ」

ビーズシングズ社は、将来もハチと共存できるよう、子どもへの教育にも貢献している。学校が希望すれば、費用を負担するスポンサーを探し、養蜂箱を設置してくれるのだ。

今では、15校でハチが飼われ、ミツバチのことを学ぶ「ビー・クラブ」ができています。同社は校内で活用してもらうべく、視察やセンサーで得られた情報を提供している。加えて、クライアントから資金を集め、都市部にハチに優しいコミュニティを築くための努力も怠らない。

同社の存在は、興味があっても、時間や知識がないと二の足を踏んでいた一般人や企業の背中を押し、巣箱を置く場を増やすのに役立っている。行き届いた環境下に置かれれば、健康なハチは増え、生態系にも恩恵があるに違いない。